

資料2 別添1

各地域包括ケア推進会議における論点

各地域包括ケア推進会議における主な議論

包括	日	参加者					議題	①課題	②関係する個別事例	③地域での対応方針	④地域での対応状況 今後の方向性	⑤市レベルで期待すること	
明第1	5月28日	町会	1	医師	2		地域共生社会の実現 ～地域の社会資源を知り、ネットワークを作る～	ア	○フレイル・認知症などのリスクを抱える高齢者世帯の早期発見、早期対応	○地域活動担い手の高齢化、後継者問題 ○地域活動同士の横の繋がりが不足 ○フレイル・認知症予防のためのサークル作り	○インフォーマルの把握とネットワーク作り ○要介護者早期発見のためのチェックリスト活用 ○社会資源リストの見直し ○専門職と地域活動とのコラボによる介護予防	○市全体のインフォーマルの集約 ○社会資源をインターネットで検索できるサイトを作る	
		地区社協	1	歯科医師	1	介護事業者							
		市社協	1	薬剤師	1	通所介護							1
		民生委員	4	看護師	0	訪問介護							0
		ボランティア		保健師(市役所職員含む)	1	訪問看護							0
		高支連	0	医療相談員	2	グループホーム							2
		生活支援CO	1	理学療法士	0	小規模多機能							1
		地域	15	基幹型	1	地域包括							7
				障害事業所	0	市役所							2
				ケアマネ	1	合計							45
明第2西	5月8日	町会		医師	1	ケアマネ	8	ア	○介護保険の訪問介護では支援できない買物ができずに困っている(季節に合った衣類の買物など) ○買物が届かなくて、重い荷物を持って帰る身体能力がない	○買物移動支援(すまいるショッピング)の拡充 ○買物代行ボランティアの仕組み作り ○企業や商店と協力し地域の活性化にもつなげる	○買物移動支援(すまいるショッピング)は毎月1回実施中。送迎車の運転手確保が課題 ○ボランティアマッチングシステム(えんじょの)の試験運用開始予定 ○移動スーパーによる販売開始予定	○経済困窮者に対し、買物のための交通費負担や有償ボランティア利用時の費用負担など経済的支援 ○移動支援に協力する事業者(送迎車や運転手の提供など)への補助金 ○市職員に地域でのボランティア活動を奨励してほしい	
		地区社協		歯科医師	1	介護事業者							
		市社協		薬剤師	1	通所介護	2						
		民生委員	1	管理栄養士		訪問介護							
		ボランティア		作業療法士	1	訪問看護	1						
		高支連		医療相談員	1	地域包括	4						
		生活支援CO	1	言語聴覚士		市役所	2						
				警察		認知症グループホーム	1						
				消防		特別養護老人ホーム	1						
						合計	26						
						イ	普段、地域での交流がない高齢者には、集いの場の情報が届かなかつたり、いきなり一人で参加するには高い心理的ハードルがある	○集いの場の拡充 ○通いの場に通いやすくする工夫 ○ケアマネに対する社会資源の情報提供と活用促進	○地区社協主催の地域カフェがにぎわっている。 ○特養と町会がコラボした地域カフェが毎月1回開催中 ○商店や人が集まる拠点で、集いの場のポスター掲示				

各地域包括ケア推進会議における主な議論

包括	日	参加者				議題	①課題	②関係する個別事例	③地域での対応方針	④地域での対応状況 今後の方向性	⑤市レベルで期待すること	
明第2 東	5月15日	町会	4	医師	1	ケアマネ	11	見守りの手段である 緊急通報装置につ いての情報共有が十分 ではない	○ルールを守る事が出来 ない自己中心的な利用者 への支援 ○認知症で知人宅に夜遅 く何度も訪問してしまう ○家族の協力が乏しく本 人の認知力低下も著しい 利用者が在宅生活を送る ための支援について	○ALSOKの担当より説明を 受けて支援者全体で緊急通報 装置の知識を深める ○装置を導入した事例を共有 し設置の必要性があるケー スについて学び申請から使用 の流れを知る	○市内で1310世帯が装置を 導入している現状があり、明 2東圏域でも今後さらに独居 高齢者の増加が予測される ○支援者一人一人が装置に関 する知識を深めていくことが できるよう今後も必要時情報 共有する機会を設ける	○心疾患や脳血管疾患など 緊急性が高く迅速な対応が 必要な事案が生じる可能背 があるため、緊急通報装置 の安否確認センサーが作動 する時間を24時間よりも短 時間で通報されるようにし てほしい
		地区社協	0	歯科医師	1	介護事業者						
		市社協	0	薬剤師	1	通所介護	0					
		民生委員	17	看護師	1	訪問介護	0					
		ボランティア		作業療法士	0	訪問看護	2					
		高支連	0	医療相談員	0	地域包括	8					
		生活支 援CO	0	理学療法士	1	市役所	0					
				警察	0	グループ ホーム	1					
				消防	0	小規模多機 能	1					
				その他	5	合計	54					
本庁	5月22日	町会	3	医師	1	ケアマネ	3	災害時要支援者の安 否確認について	○独居、認知症があり、 地縁がなく、外部に助け を求める力が不足してい る高齢者の支援。	○自治会では災害時の要支援 者として市より提供の名簿で 把握。 ○介護事業者はBCPにより要 支援者を把握している。	○避難訓練等を地域や介護事 業者等合同で行う。 ○災害時要支援者の支援に関 して、具合的な支援計画を地 域や介護事業所共有にて行 う。	○地域や介護支援事業所が 把握している災害時要支援 者名簿を、個人情報を守る しながら柔軟に支援者が共 有・把握できる仕組み。
		地区社協	1	歯科医師	1	介護事業者						
		市社協		薬剤師	2	訪問看護	3					
		民生委員	1	看護師		福祉用具	1					
		ボランティア		作業療法士	1							
		高支連		医療相談員		地域包括	5					
		生活支 援CO		理学療法士		市役所	3					
				警察		グループ ホーム	1					
				消防		小規模多機 能						
				しくなるあ いず		合計	26					

各地域包括ケア推進会議における主な議論

包括	日	参加者				議題	①課題	②関係する個別事例	③地域での対応方針	④地域での対応状況 今後の方向性	⑤市レベルで期待すること	
常盤平	5月16日	町会	2	医師	1	ケアマネ	4	<p>○2号被保険者など若い世代の支援においては、医療や他機関とより連携が必要な時がある。</p> <p>○障害を持つ家族の世話をすることで疲弊している高齢者にどのようにアプローチすればよいか。</p> <p>○介護と就労の両立、家庭の中に引きこもりの子がいるなど、複数の課題を抱える世帯が増えている。</p>	<p>○在宅生活を今後も望む50歳代女性が地域で生活を継続していく上で、どのような機関と連携を図り支援を行っていかばよいか。</p> <p>○障害のある家族の支援のため、自分自身をケアできなくなっている高齢者の支援について</p> <p>○同居する引きこもり状態の子供がいるが、今後のキーパーソン不在の恐れがある世帯へのケアマネとしての支援方法について</p>	<p>○医療に関することは、病院の相談員と課題を共有して解決を検討していく。</p> <p>○高齢者が子や孫の世話が負担になっている反面、生きがいに繋がっている側面もある、支援者間で共有し、負担を見極める。</p> <p>○親が高齢になりすぎず、早期に相談できるよう市民に相談窓口の周知、閉じこもりの人の発見、働きかけ、アウトリーチなどできる体制作り。</p> <p>○医師が本人にデイサービスなど外出機会を持つよう話す。</p>	<p>○家庭の中に複数の課題のある世帯が増えており、一つの機関では解決が難しくなっている。各機関が積極的に情報提供、連携を図っていく。</p> <p>○支援者の困りごとを主治医から本人に話してもらう。</p> <p>○医療職との連携強化。</p> <p>○本人や介護者の悩みや不安を相談できる場所、環境作りが必要。</p> <p>○支援者が互いの立場、状況を理解し合い、連携、支援していく力を強化していく。</p> <p>○各世代の相談窓口の周知</p>	<p>○介護保険支援対象者は、高齢者ばかりではない。幅広い世代を対象とした通所介護事業者や入居施設の設置。</p> <p>○障害の特性にあったグループホームを選択できるよう増設。</p> <p>○多分野合同研修、顔の見える関係作りの機会</p> <p>○相談機関のアウトリーチ機能の充実及び強化</p> <p>○多世代、多問題、各相談窓口や福祉まるごと相談室の役割周知</p> <p>○市役所の相談機関の周知や活用について</p>
		地区社協	0	歯科医師	0	介護事業者						
		市社協	0	薬剤師	2	通所介護	0					
		民生委員	2	相談機関	1	訪問介護	0					
		ボランティア		理学療法士(学生)	2	訪問看護	0					
		高支連	0	医療相談員	2	地域包括	5					
		生活支援CO	0	理学療法士	1	市役所	6					
		商店	2	計画相談員	3	特別養護老人ホーム	0					
		成年後見相談	1	基幹相談	1	小規模多機能	2					
						合計	37					
常盤平 団地	3月7日	地区社協		歯科医師		介護事業者		<p>○独居高齢者の孤立・孤独</p> <p>○認知症高齢者の生活支援</p> <p>○コミュニケーション機会の不足</p>	<p>○認知症で支援拒否がある方の支援について</p> <p>○意思疎通が困難な方への支援方法について</p> <p>○金銭管理をしている家族に対し暴言があり、家族が疲弊しているケース</p> <p>○障害サービスから介護保険に移行予定の妻に依存傾向のある方の支援方法について</p>	<p>○地区社協ホームヘルプ事業の協力者を増やす</p> <p>○お手伝いシール</p> <p>○団地イベントへの参加促進</p> <p>○買い物、通院支援、移動販売、移動理美容が可能である業者を見つけ、協力依頼を試みる</p>	<p>○お茶を飲む会の継続実施</p> <p>○住民向け情報提供のイベント開催</p> <p>○ボランティア養成</p>	<p>○空き部屋対策</p> <p>○バリアフリー化の促進</p> <p>○移動販売誘致</p> <p>○要介護認定でタクシー券</p> <p>○スーパーレジ支払い支援</p> <p>○市役所経由チャトル便</p> <p>○乗り合いタクシー、コミュニティバス、病院送迎バス、巡回式、幼稚園、葬儀社など空き車両利用</p> <p>○買い物動線上に休憩所の設置(歩道、店舗内)</p>
		市社協	1	薬剤師		通所介護	2					
		民生委員	2	看護師		訪問介護						
		ボランティア		作業療法士		訪問看護	1					
		高支連		医療相談員	1	地域包括	5					
		生活支援CO	1	理学療法士	1	市役所	2					
		民児協		警察		司法書士						
		大学実習生		消防		団地事業者	2					
				福祉用具		合計	18					

各地域包括ケア推進会議における主な議論

包括	日	参加者				議題	①課題	②関係する個別事例	③地域での対応方針	④地域での対応状況 今後の方向性	⑤市レベルで期待すること	
五香松 飛台	5月16日	町会	医師	1	ケアマネ	4	ア	認知症の方の防災 ○認知症状のある母親と引きこもりの息子が同居 ○認知症独居の方の災害時の対応。	○民生委員、相談協力員とケアマネとの連携会議を継続実施。 ○小学校で行う防災訓練に参加。	○民生委員、高支連の名簿一覧をケアマネに随時配布。 ○認知症の要支援者の避難誘導訓練。	○教育委員会に働きかけ認知サポを必須とするカリキュラムを作る。 ○防災計画や避難計画の普及啓発	
		地区社協	1	歯科医師	1	介護事業者						
		市社協	1	薬剤師	1	通所介護						
		民生委員	6	看護師	0	訪問介護						
		ボランティア		常盤平基幹	1	訪問看護						1
		高支連	6	管理栄養士	1	地域包括						8
		生活支援CO	0	理学療法士	1	市役所						1
		松戸NPO	1	学校教頭	1	特別養護老人ホーム						1
				健康推進課		小規模多機能						
				その他	0	合計						37
六実六 高台	5月15日	町会	2	医師	ケアマネ	6	ア	六実六高台地区で（介護保険以外の）使える社会資源の共有 ○エレベーターがなく外出できない方の支援 ○配偶者が施設に入所してしまい一人暮らしに不安を抱える本人の支援 ○介護保険利用対象ではない耳の遠い独居高齢者支援	○周知できるよう結果をまとめる ○地域で情報を共有する	○冊子をつくる ○松戸市独自サービス（A3）をリニューアルしてもっと見やすくする ○松戸市公式ホームページ（まつどDEいきいき高齢者）の情報を更新する		
		地区社協	1	歯科医師	1	介護事業者						
		市社協		薬剤師	1	通所介護					1	
		民生委員	1	看護師		訪問介護						
		ボランティア		作業療法士		訪問看護					1	
		高支連	1	医療相談員		地域包括					5	
		生活支援CO		理学療法士	1	市役所					2	
				警察		特別養護老人ホーム					1	
				看護多機能		小規模多機能					1	
				グループホーム		合計					25	

各地域包括ケア推進会議における主な議論

包括	日	参加者				議題	①課題	②関係する個別事例	③地域での対応方針	④地域での対応状況 今後の方向性	⑤市レベルで期待すること	
小金	5月31日	町会	1 医師	1 ケアマネ	1	地域での熱中症対策について	ア	○熱中症対策（エアコンのない住宅で夏をどう乗り切るか） ○熱中症予防について	○生活保護世帯は受給開始時、転居時にエアコン取付費の支給受けられる場合があり、それ以外は社会福祉協議会の生活資金貸付制度の案内 ○社協の貸付は事前面接があり、民生委員が立ち合い支援したケースがある	○電気代節約になるような効果的なエアコンの使い方・エアコンない時の対処法の周知 ○エアコン購入時の専門職の個別支援 ○デイサービスやショートステイ等の介護サービスの適切利用 ○小金ニュースレターによる注意喚起	○クールスポットの整備	
		地区社協	歯科医師	1	介護事業者							
		市社協	薬剤師	2	通所介護							
		民生委員	2 看護師	1	訪問介護		イ	○熱中症で救急搬送される方、亡くなる方は高齢者の割合が高い	同上	○利尿作用がある飲み物は熱中症予防にならない ○7月8月の搬送数が多い。早い時期からの注意喚起が必要 ○口が渇くと口腔内細菌が増え誤嚥性肺炎のリスク高まる ○夜間の対応を検討する必要あり	○早い時期からの注意喚起、状況把握 ○ながいき室の魅力アップの必要。登録制は良い。 ○救急搬送しても入院は少なく自宅の環境整備が必要 ○安全が著しく損なわれる恐れがある場合は専門職が強く介入する	○ながいき室を高齢者だけではなく、障害、小児も利用できるようにルールを見直す
		ボランティア	作業療法士		訪問看護							
		高支連	医療相談員		地域包括							
		生活支援コーディネーター	1 理学療法士		地域包括ケア推進課		2	ウ	災害時の熱中症対策	○備蓄や要援護者の把握で精一杯。熱中症予防対策は進んでいない	○エアコンが使えない時の対処法の周知 ○日ごろから食事・睡眠・運動に気をつける	○災害時の熱中症予防対策の検討
		生活支援課	1 警察		特別養護老人ホーム		1					
		健康推進課	2 消防									
		元気応援クラブ	1	合計	20							
小金原	5月31日	町会	2 医師	1 ケアマネ	1	独居、認知症、介護事業者 介入・交流に関する拒否についての対応 介入・交流に関する拒否についての対応～事例発表・グループワークを通じて～	ア	○認知症の方に対して詐欺被害防止のための多職種連携による関わりの事例 ○町会で介護拒否の方へのアプローチに関する取り組みの事例 ○介護拒否の方に対する関係性作りで難儀する事例 ○独居、身寄りのない方、介護拒否で孤独死される方に関する事例	○CM、地域住民、包括、弁護士、医師の連携と後見制度の活用 ○町民の安否確認や情報交換の為にオシャレサロン、有志クラブ、町会イベントの定期的な実施による情報交換の場作り ○複数回の声掛けと町会イベントの案内や参加の促し ○町内会での見守りに関して独居登録と自治会参加の推奨活動	○近隣住民同士での見守り ○お互いに話しやすい環境を作るための場の提供 ○世代を超えた子供、大人、高齢者が一緒にいられる場所作り ○要介護者を看てくれる環境作り	しくみの中に生じている隙間を埋めるための行政や政策によるバックアップの構築。例えば、民生委員等が見守り活動をする中で、拒否がある方でも食べ物を持っていくと玄関を開けてくれて安否確認できることもある（開けてくれなくても、食べ物を玄関先に置いて、なくなっていれば安否確認できる）。そのような食料を提供できるような行政や政策による体制作り	
		地区社協	歯科医師		介護事業者							
		市社協	薬剤師		通所介護							
		民生委員	3 保健師		訪問介護							
		ボランティア	作業療法士		訪問看護							1
		高支連	医療相談員	1	地域包括							6
		生活支援CO	理学療法士	1	市役所							3
			警察		特別養護老人ホーム							
			消防		小規模多機能							
					合計							19

各地域包括ケア推進会議における主な議論

包括	日	参加者				議題	①課題	②関係する個別事例	③地域での対応方針	④地域での対応状況 今後の方向性	⑤市レベルで期待すること		
新松戸	5月21日	町会	医師	1	ケアマネ	2	地域で支える仕組み～それぞれの立場で感じている地域課題～	<p>○独居で地域とのつながりが希薄なため、実態を把握出来ず見守り出来ない。 ○近所の支援者負担が大きい。支援者の高齢化。助け合いの不足。地域を支えるシステムがうまく機能していない。介護認定を受ける前でも困り事がある。 ○必要性はあってもサービス拒否があると支援に入れない。 ○今後予測される8050、9060、高齢者と障害者世帯等へは、その時が来ないと支援に入れない。</p>	<p>○R5.7.18の事例 認知症が進み、一人暮らしが困難になってきた方への支援 ○R5.9.19の事例 サービス拒否のある認知症夫婦への支援 ○R6.1.16の事例 一人暮らしの認知症高齢者を地域で支える ○R6.3.19の事例 独居で頼れる親族もおらず支援が進まないケース</p>	<p>○通いの場の充実や介護保険外でも利用できるサービス、有償ボランティアが充実すると良い。介護認定を持っていない方も運動に誘う。 ○地域で看取れるようなしくみの準備、助け合いの関係作りの準備、助け合いの関係作りが必要。 ○子ども～大学生の見守り、育成が出来る则良い。学生が徘徊等で困っている高齢者を発見した時の連絡先の普及啓発を行う。 ○地域包括の普及啓発 ○災害時に向けた避難計画を進める。分かりやすい安否確認の方法を検討する。</p>	<p>○介護保険外サービスの担い手やボランティアの育成をする。 ○町会・マンション単位等でも孤独死や災害時の対応についての検討や、いざという時の助け合いの関係作りを進める。 ○徘徊高齢者発見時など困った時の相談・通報先も含めた包括の周知を継続する。</p>	<p>○利用しやすいボランティアのポイント制度や特典の導入。 ○介護保険利用までにかかる期間の短縮。ケアマネ不足の解消。 ○要配慮者名簿登録の義務化。</p>	
		地区社協	1	歯科医師	1	介護事業者							
		市社協	1	薬剤師	1	通所介護							
		民生委員 (1名高支連重複)	3	保健師	1	訪問介護							
		ボランティア		言語聴覚士	1	訪問看護							1
		高支連	1	医療相談員	1	地域包括							4
		生活支援CO		理学療法士		市役所							1
		オレンジ協力員	2	警察		特別養護老人ホーム							
		CI新松戸	3	消防		グループホーム							
				障害	1	合計							26
馬橋西地域包括支援センター	5月24日	町会	医師	1	ケアマネ	4	日常生活の中での困り事を解決していく方法について	<p>高齢になり移動（車の運転や免許返納等の含む）が難しくなったり、認知症や精神疾患の悪化等で身体状態や判断能力が低下して来た時に、買い物、外出、通院等を継続していく方法について。</p>	<p>認知症や精神疾患などにより、外出、通院等の継続が出来なくなる可能性がある。 ○防災訓練等地域でのイベントでの地域包括支援センター等の啓発活動。 ○住民が集まってでかけていき、又、介護予防も合わせて行える様なグループを作る事が出来ないか。 ○大学生等若い世代の方に活躍してもらう事が出来れば。</p>	<p>○地域のイベント等で地域の子供、若者等に高齢者の困り事等を知ってもらう機会を設ける。 ○市内にある大学に働きかけをおこなっていく。 ○お買い物や外出通院クラブの様な高齢者が集まって出かけて行けるようなグループを作る事が出来ないか検討する。</p>	<p>○免許返納時の特典等松戸市独自の取り組みが出来ないか。 ○買い物代行マッチングアプリ等の作成。</p>		
		地区社協	1	歯科医師		介護事業者							
		市社協		薬剤師	2	通所介護							
		民生委員	2	看護師		訪問介護							
		ボランティア		作業療法士		訪問リハビリ						1	
		高支連	1	医療相談員		地域包括						5	
		生活支援CO		理学療法士		市役所						2	
				警察		小規模多機能						1	
				消防		看護小規模多機能						1	
						合計						20	

各地域包括ケア推進会議における主な議論

包括	日	参加者				議題	①課題	②関係する個別事例	③地域での対応方針	④地域での対応状況 今後の方向性	⑤市レベルで期待すること			
馬橋	5月9日	町会	医師	1	ケアマネ	1	お互いさまとして支え合える地域づくりを目指して	ア	支援が行き届いていない高齢者が増えている。	認知症でサービスのない時間に徘徊してしまう高齢者がいる。	既存の活動を発展させ、支援者が楽しく参加できる仕組みを作る。	地域の高齢者が継続して社会参加できる場を創出する。	住民の方と介護事業所が交わる場 高齢者の移動支援	
		地区社協	歯科医師		介護事業者									
		市社協	1	薬剤師	1	通所介護								1
		民生委員	1	看護師		訪問介護								1
		ボランティア		作業療法士		訪問看護								
		高支連		医療相談員		地域包括								6
		生活支援CO	1	管理栄養士	1	市役所								2
				警察		グループホーム								1
				消防		小規模多機能								2
				理学療法士	1	合計								21